

医療連携・患者支援センター、ソーシャルワーカーのご案内

医療連携・患者支援センター 神場 譲

病気やけがにより様々な不安や心配事が生じたことはありませんか。例えば、医療費が高額で支払いできず、治療の継続ができない、家族の介護を続けていくことが大変などと、今までの生活が維持できなくなってしまうこともあるかと思います。また、介護保険や年金制度など普段聞きなれない制度の申請に、戸惑いや不安を感じる方も多くいらっしゃると思います。このような不安を患者さん・ご家族とともに考え、可能な限り治療に専念ができるよう支援していくのがソーシャルワーカーです。チーム医療として医師・看護師等、他の専門職と話し合いながら、不安解消や問題解決ができるよう支援をする社会福祉専門職になります。

当院では、ソーシャルワーカーは入院・外来にそれぞれ担当が分かれ、より専門的に対応しております。平日は夕方5時まで、土曜日は午後2時まで相談を受け付けています。お困りのことがありましたら、お気軽にお越しください。

外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ずご持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

編集後記

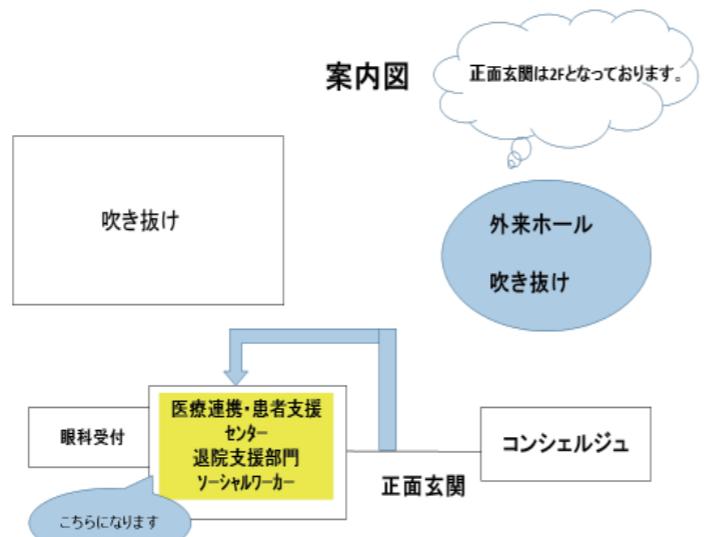
今年の夏は4年に1度開催されるオリンピックイヤーでした。ただでさえ暑い夏なのに、皆さん熱い声援を送って、ヒートアップされたのではないかでしょうか。私は毎朝ニュースで結果を知りましたが、夜中観戦をして日中眠い目をこすりながら仕事をされた方多かったです。日本は合計41個のメダルを獲得し、過去最高となりました。若い選手たちの活躍がメダルに大きく貢献していたことを考えると、4年後の東京オリンピックも期待しています。熱い声援を送った夏が終わり、スポーツの秋到来。私としては食欲の秋の方が興味があるのですが、この機会に是非何かスポーツにチャレンジしたいと思います。皆さんも何かスポーツにチャレンジしてみてはいかがですか?

(看護部 梅野 加寿枝)



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)
発行月：2016年10月【年4回(1・4・7・10月)発行】
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

案内図



お見舞いについて

【面会時間】

平 日	15:00~19:00
土・日・祝日	11:00~19:00
創立記念日	(2階西病棟13:00~19:00)
年 末 年 始	

防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。
時間内の面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。
状況に応じ時間外面会許可証を発行いたします。

東邦大学医療センター佐倉病院
～患者さんと病院を結ぶ情報誌～



SAKURAdayori

東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

看護部長就任に際して

看護担当副院長 高橋 初枝



が勤務しております。患者さん・ご家族にとって一番身近な存在として、看護部の理念である「生命尊重と人間愛を基本とし、やすらぎと心のかゆ、あたたかい看護を提供します」を実践していきます。

急性期病院の在院日数はますます短縮しています。平成25年には、他職種や看護相談部門の看護師と連携し、外来受診時から入院加療、退院後の生活までを見据えて、必要な支援についてのアセスメントや、意思決定支援を行う退院支援リンクナースを各病棟に配置しました。また、平成27年より医療依存度の高い状態で在宅に移行していく患者さんに対して、認定看護師による訪問看護師との同行訪問を開始しました。同時に退院調整部門の看護師による退院前訪問、退院後訪問を開始しました。これからは、その役割を拡大し、退院前に病院の看護師が在宅に出向き、患者の生活の場を自分の目で見て確認し、退院後は自分たちの行った退院支援・退院指導が適切かを評価していくことが課題です。目まぐるしく変化していく時代の中で、病気や老いと向き合いながら自分らしく住み慣れた地域でできるだけ長く生活できるように、患者さん・ご家族にとって必要なことは何かを考え、今後も取り組みを継続していきます。

地域で考えるケアと治療「お酒とからだの付き合い方～診断と治療」

神経内科 榊原 隆次



お酒を少量たしなむことは健康に良いとも言われます。一方お酒の量が相応をこえますと、いろいろな合併症が起きます。どのようにお酒と付き合うと良いのでしょうか？この点について今回、佐倉病院として初めて、お酒をテーマにした公開講座が開催され、116名と多数のご参加を頂き、会場は大盛況でした。

榊原の総合司会の下、最初に、脳外科の原田助教から、「お酒とけが」について、慢性硬膜下血腫を含めたお話がありました。年配の方がお酒を飲んで転倒してしまうと、後から歩行障害や認知症が出ることがあるとのこと、注意しないといけませんね。続いて、糖尿病・内分泌・代謝センターの今村医師から、最新の研究を含めて、「お酒とポリフェノール」のお話がありました。ワインに多く含まれるポリフェノールが動脈硬化を予防する可能性があること、そのチェックには血管の硬さを測定するCAVI(キャビと読みます)検査が良いとのこと。続いて、消化器科の高田講師から、「お酒とからぞう」のお話がありました。「休肝日」という言葉で広く知られているように、お酒を飲みすぎると、肝臓を悪くしてしまいます。これだけでも盛り沢山の内容でしたが、短い休憩をは

さんで、神経内科の相羽医師から、「お酒とのうしんけい」について、お酒に酔うとはどういうことなのか（広い意味では神経のまひ）、その病気の中にはアルコール認知症があり、Jカーブとして、少量までは良いが、1日摂取量がエタノール換算40g超を長期間摂取すると、認知症をきたすということが示されました。次に、メンタルヘルスクリニックの桂川准教授から、「お酒と依存」のお話があり、続いて、鈴木精神科社会福祉士、尾形臨床心理士から、適切な対応についての丁寧なお話を頂きました。最後の質問コーナーでは、会場から多数のご質問・ご意見を頂き、参加された皆様方には大いに参考になったのではないでしょうか？

当日のスライドとアンケートの集計結果は、佐倉病院神経内科のホームページから見ることができますので、ぜひご覧ください。次の神経内科関連講座（11月）のテーマは「認知症」です。これもまた、興味深い内容で、最近話題の「物忘れ」について、病気と最新の治療・ケアを勉強するきっかけになるのではないかでしょうか。次回もぜひご参加頂けますと幸いです。



会場の様子

2016～2017年 公開講座のお知らせ（入場無料・申込不要・200席）

開催予定日	講演予定テーマ	担当
10月22日（土）	「循環器疾患を知って、健康に生きる」	〈循環器内科〉野呂 真人・清水一寛・他
11月26日（土）	〈地域で考えるケアと治療〉認知症と共に歩む“診断と治療”	神経内科・メンタルヘルスクリニック・薬剤部・脳神経外科・リハビリテーション部・臨床心理・ソーシャルワーカー・看護部
12月10日（土）	「腎臓と健康」	〈腎臓内科・他〉大橋 靖・他
1月28日（土）	「あなたと家族を守る看護の視点～災害を乗り越えるために今できることを認定看護師と考える～Part.1」	〈看護部・他〉
2月25日（土）	「うつ病」（仮）	〈メンタルヘルスクリニック・他〉桂川 修一・他
3月11日（土）	「家庭でも実践できる感染対策」	〈感染対策室〉長島 誠・他

※SAKURAdayori Vol.27(7月発行)でご案内した10月と11月の講演タイトルが変更となりました。（講演内容に変更はございません）
ご参加お待ちしております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

♪クリスマスコンサート2016♪ 12月開催予定!!

演奏：佐久間 豊春率いる12人のチェリストたち『チェリッシモ・ラビッシュモ！』
◎詳細は院内掲示にてご案内いたします。お楽しみください!!



「たんぱく尿」は腎臓病のサイン、「GFR」は腎機能のマーカー



腎臓内科 大橋 靖

蛋白質はからだにとって大事なものです。通常はほとんど腎臓からろ過されず、排泄された場合でも40～80mg程度です。ところが「糸球体（しきゅうたい）」と呼ばれるフィルター構造をもつろ過器が、なんらかの原因で痛んでくると尿に「蛋白（たんぱく）」がでできます。これを「蛋白尿（たんぱくよう）」といいます。蛋白尿は糸球体の障害を示唆する大事な所見です。

糸球体は様々な病気で障害されます。糸球体の火事（炎症）が起きた場合、「ステロイドや免疫抑制薬」によって消火活動をする必要があります。糸球体で起る火事（炎症）の原因によって蛋白尿が多いタイプ、急激に腎臓の働きが低下してしまうタイプ、数十年かけてゆっくり腎臓の働きが低下するタイプ、薬が効きやすいタイプ、効きにくいタイプなどいろいろ分かれます。また、糸球体の構造のどこが障害されるのかによっても治療プランが異なるため、適切な治療を行うには火元をきちんと調査（腎生検）をして対策をたてる必要があります。

「クレアチニン」と「GFR（ジーエフアール）」は腎機能のマーカーです。火事（炎症）が広範囲に広がると焼け野原が拡がってしまい、腎臓の働きが低下します。糖尿病や高血圧、生活習慣病も腎臓に負担になり、荒れ地を拡げます。腎臓の働きが低下すると、クレアチニンが上昇し、GFRが低下

します。荒れ地を元に戻すことはなかなか難しいですが、残っている腎臓を大切にしていくために「腎保護療法」を行っていきます。腎臓の働きが失われると、あなたの健康が障害され、末期腎不全に進展すると色々な症状が出現します。あなたが健康でいられる安全域が狭くなり、心臓や血管に負担をかけます。その腎臓の働きを代用し、あなたの健康を持続させるために、透析療法や腎移植が必要になります。

当診療科では、「腎臓病の重症化を防ぐこと」「腎臓病からあなたの健康を守ること」を目標に「腎臓病と健康」をテーマとして、おひとりおひとりにあった診療を提供できるように心がけています。



大橋 靖 准教授 山崎 恵介 助教

緩和ケア認定看護師の活動

緩和ケア認定看護師 宮脇 真代

の理解者になることです。「仕事を続けながら治療を継続したい」、「病気や治療に制限されることなく自分らしい生活を送りたい」、「最期まで自宅で過ごしたい」など、患者さんやご家族の意向に沿った医療・看護の提供を目指しています。緩和ケアは医師やその他の職種と協働したチームで行います。緩和ケア認定看護師は、患者さんご家族の代弁者となって、チームで患者さん一人ひとりの『生きる』を支える調整役を担っています。

緩和ケアの認知度はまだ高いとは言えません。そのため、佐倉病院で緩和ケアを必要とする患者さんやご家族に、病気の治療と並行して早期から緩和ケアが提供できるようになることを目指し、活動していきたいと思います。

